

### 1. 自己紹介

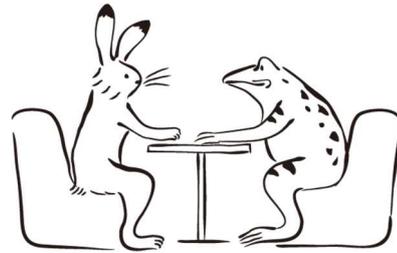
大分大学大学院福祉健康科学研究科臨床心理学コース1年の亀長怜奈(かめなが れな)です。

私の経験をもとに卒論のテーマの決め方、スケジュール、書き方を紹介していきます。

学部時代の所属:福祉健康科学部 心理学コース

現在の所属:福祉健康科学研究科 臨床心理学コース

趣味:お笑い、ゲーム、読書、etc…



#### 臨床心理学コースとは

私は、学部から引き続いて心理学を勉強しています。

大学院は研究をする場所というイメージを持つ人も多いのではないのでしょうか。大学院や専攻にもよりますが、大分大学では心理学の研究というよりも実践的な勉強をします。

講義では、生徒同士でカウンセリングや心理検査の練習をします。それだけでなく、実際に相談に来る人のカウンセリングや心理検査を取るなど実践的なことが沢山勉強できます。

学部の時よりもかなり忙しくて毎日大変ですが、とても充実しています！

### 2. 卒論テーマ・タイトル・概要

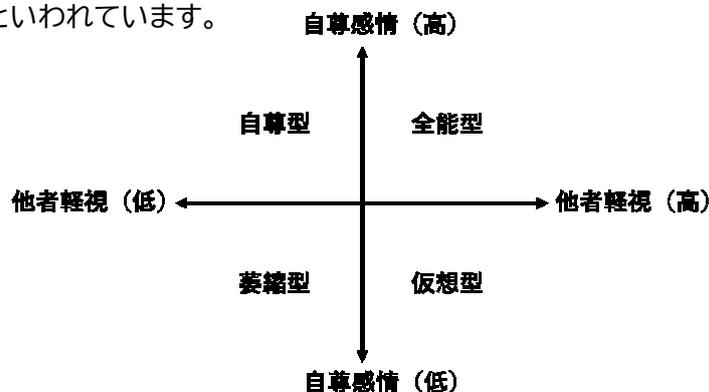
私の卒論のタイトルは、「**大学生における劣等感と有能感タイプの関連**」です。

自分を好きだと思ふ気持ちを「自尊感情」、人のことを見下して自分の方が優れていると思ふ気持ちを「他者軽視傾向」といいます。

この二つの気持ちは、人によって感じる程度が異なっていて、

自尊感情(高・低) × 他者軽視傾向(高・低)

で4タイプに分けられるといわれています。



また、人と比べて自分は劣っていると思ふ気持ちを劣等感といい、今回は8種類の劣等感を測定しました。

私の卒業論文では、アンケートを実施して、その結果をもとに協力者を4タイプに分け、仮想型は全能型よりも劣等感を感じやすいという仮説を立てました。

結果として、①仮想型は全能型よりも8種類全てにおいて劣等感を感じやすい、②家庭環境に対する劣等感仮想型が有意に感じやすいということが分かり、仮説は支持されました。

## 卒論の分量

文字数は、**1万6千字(A4で41ページ)**でした。

ページ数に驚いた方もいるかもしれませんが、私の学部は文字数やページ数の決まりはありません。私の場合、図表が15ページほどあり、文字数に引用文献の記載なども含まれているので、実際に自分で書いた量は少ないです。



## 3. 完成までのスケジュール

時期	内容
3年生の10月	ゼミに配属
4年生の4月	論文を読み始める
6月	テーマが決まる
8月	倫理申請を行う
9月	大学院入試、卒論中間発表会
10月	アンケート調査開始
12月	ゼミ内締め切り
2月	最終報告会、卒論提出

読んだ論文の量は、**約100本(ほとんど日本語論文)と書籍を2冊(日本語)**です。ですが、1ページしかないような論文も含まれているので、読んだ量はそこまで多くないです。テーマが決まる前に読んだ論文もあるので、卒論に使用した論文は30本くらいです。

私は最初から劣等感を研究したいと思っていて、過去の研究と被らないために劣等感の論文を読んでいたり、他者軽視傾向という概念を知り、テーマが決まりました。

## 4. ポイント・感想・反省点

**ポイント:**パラグラフライティングを意識する

卒論に限らず、論文・レポートを書く際にはパラグラフライティングが求められます。最初は卒論の情報を箇条書きでまとめて書いていたので、慣れずに大変でした。

**反省点:**人を頼らなかつた

人に頼るのが苦手だったので、ほぼ自分で調べて動いていました。そのため、ミスに気づくのが遅くなり大変な思いをしたので、こまめに人に相談・確認することをおすすめします。

## 5. 活用したツール、おすすめの資料

・DeepL

翻訳サイトです。英語に限らず様々な言語を正確に翻訳してくれます。ただ、直接英語をコピーして翻訳すると、文が重複してしまい読みづらいので、「Shaper」というサイトにペーストして翻訳することをおすすめします。

・図書館の検索ツール

先行研究で使われている本や論文を読むために使っていました。大分大学の図書館に資料がない時には、県立図書館があれば無料で取り寄せできるので、取り寄せをしていました。

## 6. 後輩へのメッセージ

卒論というと面倒なものと思いがちですが、色々な人に協力してもらって自分の知りたいことが研究できる滅多にない機会です。是非手を抜かず頑張りましょう。分からないことがあれば気軽に相談に来てください！